

『上海モダン』『良友』画報の世界』

孫安石・菊池敏夫・中村みどり編

『良友』画報研究会・共同研究代表 孫 安石（中国語学科）



2018年 勉誠出版

言語研究センターに『良友』画報を冠した研究会を初めて登録したのが2002年であるので、断続的ではあったが足掛け16年間、『良友』画報に関する共同研究を続けたことになる。

これだけ長く共同研究を続けることができた

ことには幾つか理由があるが、まず、何よりも『良友』画報の内容の面白さを指摘しなければならない。本書の「序文に代えて」に書いたように、「『良友』画報には、蒋介石や毛沢東が前面に出ることはまずない。その代わりに読者と大衆という言葉が登場し、女性の最新流行を伝える美容室やパーマのかけ方、スカートの丈の長さを紹介する記事が一面を飾るのである。これらの記事を読む時には、一種の痛快さを感じた。そこには政治から解放された人々の生活と娯楽が満載であったからである。」という実感は今も変わらない。

もう一つの理由は、共同研究に参加した多くの研究仲間がいたことである。大学という組織の中で、研究に携わる多くの人々にとって「単著」の刊行は重要な使命(?)であることを否定はしないが、共同研究(論文集)の醍醐味は、また、別のところにあることも認めなければならない。

自分ではカバーできない研究領域があり、知らない分野については相談できる仲間がいる。歴史、

法律、文学、音楽、美術、建築、撮影、生活が網羅されている総合雑誌(『良友』画報)であるからこそ意見を出し合い、討論し、思索を深めた成果は、本書の刊行に大いに反映されたと言わなければならない。

勿論、残った課題は多い。例えば、『良友』画報には1920年代中国のスポーツ、身体に関連する記事が多く掲載されている。当時上海で発行された英字新聞のThe China Press, North China Herald Daily Newsなどにもスポーツ関連の記事が豊富に掲載されており、スポーツと上海、租界、そして、中国人の参加との関係を明らかにする素材を揃えることできたが、今回の論文集では、その詳細を論述することができなかった。また、『良友』画報の記事を、上海の共同租界の工部局が発行した公報Shanghai Municipal Council: The Municipal Gazette, 1908-1940. (From Shanghai Library. Contents)の内容と照らし合わせる作業も進めなければならない。幸い、これら英文の資料は、神奈川県図書館のDB目録に<http://go.galgroup.com/gdsc/start.do?p=GDSC&u=kanagawa&authCount=1>として公開されており、利用に不便はない。本書刊行と共に、『良友』画報の研究は第二期を迎え、『良友』画報と美術の関連をさらに追及していくことを目指している。

長い間、共同研究を支援してくださった言語研究センター、同僚、共同研究の仲間へ謝意を表したい。(なお、本文は、2018年3月に終了した『良友』画報と文学研究の成果報告を兼ねるものである)